

JIGハラダを
もっと身近に

JIG-HARADA TIMES

2024.09
No.001

平素より大変お世話になっております。JIGハラダ株式会社でございます。
この度、お客様に弊社の商品をより知って頂きたいと本紙を発行させて頂きました。ご一読くだされば幸いです。

人気
No.1
※当社調べ

お客様満足度
No.1
※当社調べ

強く、美しい。

Crystal
クリスタルシリーズ

機能性とデザイン性の両方を叶える、
唯一無二の屋根用雪止融雪装置。

JIGハラダの人気No1 屋根用雪止め融雪装置

Crystal series

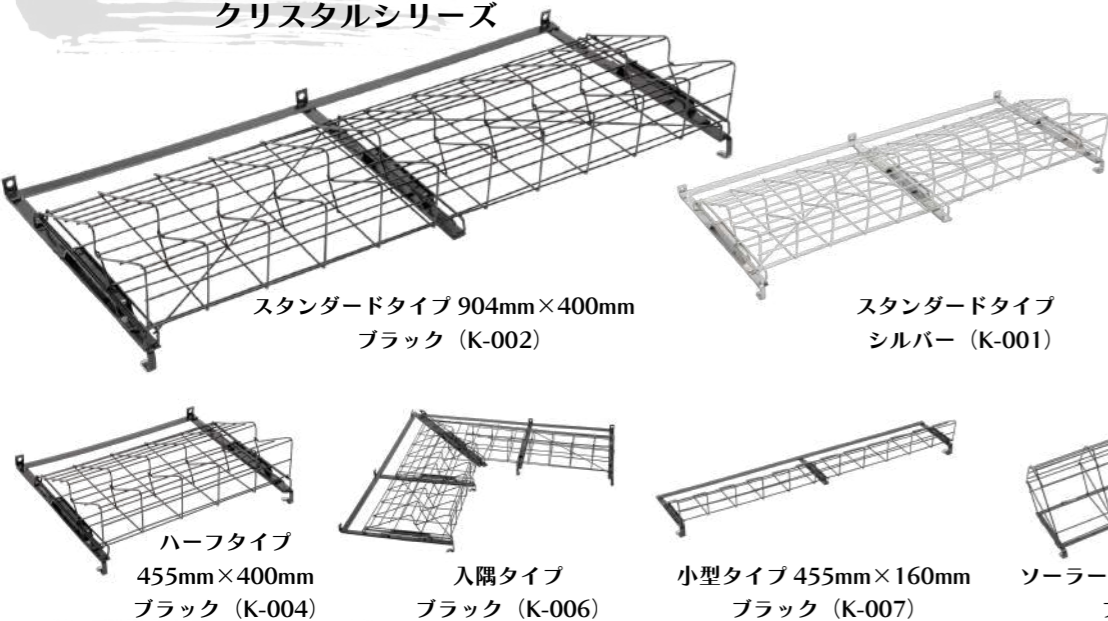
クリスタルシリーズ

今季の
イチオシ

SUS304 製

- ・オールステンレス製
- ・スッキリとしたデザイン
- ・耐荷重 500kg 以上※1
- ・線材による雪の裁断効果
を利用し融雪を促進

シルバー色も
ラインナップ
しております。



スタンダードタイプ 904mm×400mm
ブラック (K-002)

スタンダードタイプ
シルバー (K-001)

ハーフタイプ
455mm×400mm
ブラック (K-004)

入隅タイプ
ブラック (K-006)

小型タイプ 455mm×160mm
ブラック (K-007)

ソーラータイプ 910mm×210mm
ブラック (K-100)

クリスタル専用取付金具のご紹介 専用取付金具でしっかり固定！

横葺屋根用
シングルフックタイプ
高耐食鋼板 (TK-001)
ステンレス (TK-002)

瓦葺屋根用
ダブルフックタイプ
高耐食鋼板 (TK-020)
ステンレス (TK-021)

立平屋根用
シングルフックタイプ
高耐食鋼板 (TK-030)
ステンレス (TK-031)

立平屋根用
シングルフックタイプ
高耐食鋼板 (TK-030)
ステンレス (TK-031)

※1 岩手県工業技術センターにて、圧縮テストを行った結果となります。

そろそろ冬支度はいかがですか？

JIGハラダの 雪囲い金物



落雪などによる窓の破損対策に
雪囲い金物
YUKIGAKOI KANAMONO

JIGハラダでは、オリジナルの『雪囲い金物』を製造販売しております。
1～10段の十手タイプ 180mm～1820mmまでの幅広いサイズ展開で、
小さい窓から大きい窓までしっかりカバーすることが可能です。
塗装は平滑なブロンズカラー仕上げとなっています。

スタッフのご紹介



名前：阿部

所属：営業グループ

趣味：野球・断食・
レーザークラフト

コメント：まだまだ勉強中ですが、
お客様のために精一杯がんばります！

社員Nの - 食入魂

- サラリーマンが押し寄せる近所の町中華「やすだ屋」さん -



お盆も過ぎ一気に風が涼しくなりはじめ、秋の足音が聞えはじめるJIGハラダ本社。昼の時報と共に作業を終えた私はおもむろに社屋を後にする。今日も一食入魂の戦いが始まるのである。失敗は許されない。早速スマートフォンを開き店の調査を始める。最近は便利になったものだ。スマートフォンで近所の店をすぐに検索でき、ご丁寧に投稿者による★による評価まで付いている。ふと、いつもは通らないエリアの町中華が目にとまる。「ほう、100件以上の口コミ投稿で★4.2か。かなり期待できるじゃないか」車をその町中華へ走らせた。

程なくして店に到着する『やすだ屋』さん。完全に街に溶け込み、年季の入った看板や暖簾はまさに美味しい町中華のそれだった。「よし、今日の昼飯はココに決めた。」早速暖簾をくぐると、既に昼飯時のサラリーマンで店内はほぼ満員状態。これは予想以上に期待できるぞと内心で勝利を確信し、唯一空いていたカウンターに腰を下ろした。厨房では店主と思われる男性が3～4種類の同時調理を繰り返している。その捌き方はまさに職人芸だ。趣のある黄色いメニュー表に目をやると、美味そうなものばかりである。他の客は、それぞれにお気に入りがあるようで、三者三様の品を食べている。何を頼んでも美味しいのだろう。定番のラーメンか。いや、しょうが焼き定食か？いや、あるいは…

「お待たせしました肉みそ炒め定食です」私の前に置かれた料理。そう、私の本日の決断は肉みそ炒め定食である。見るからに美味そうなボリュームたっぷりの肉みそ炒めに程よく盛られた白米、付け合わせのやっこも嬉しい。たまらず頂いてみる。「美味い！」甘辛い濃厚な味噌の絡まる豚肉と、さっと油通したシャキシャキの野菜の組み合わせが絶妙である。豚肉は脂身の少ない良質かつボリュームミーなもので良心的な店主に感謝。間髪入れずに白米に雪崩れ込む。正に勝利である。濃厚な味わいを米で中和すると、また濃厚な豚肉と野菜を食べたくなる無限ループ。

あっという間にボリュームミーな定食を平げ、完全勝利の余韻に浸りつつ意気揚々と会社への帰路に着くのであった。

